

43 回生 3 年生の皆さんへ

進路達成に向け、教科・科目ごとの学習スケジュールを示します。参考にしてみてください。

### 【英語】

■第 1 回考査（6 月下旬）までには基礎を固めよう

□語彙：『DUO3.0』に収録されている単語・熟語（類義語・反意語含む）は既に学習済みだと思います。万が一、覚えていない場合はすぐに取り組んでください。語彙は何度も繰り返し復習することで定着します（最低 3 周）。つまり、覚えるのに時間がかかりますが、覚えた分だけ英語ができるようになります。

□文法：『be 3rd Edition』の CHECK 問題に取り組んでいると思いますが、理解が不十分な項目があるはずで。そのような項目については必ず復習をし、遅くとも夏休み前には終了して下さい。共通テストレベルはこれで十分です。文法の基礎知識が十分でなければ、問題演習をたくさんこなしても消化不良になってしまいます。その後、『REPS』にも取り組み、しっかりと解説にも目を通してください。より詳しい説明が必要な場合は、『be 3rd Edition』を参照しましょう。共通テストには大問として文法は出題されませんが、私大、英作文では必ず必要になります。

□リスニング：授業時間だけでは十分なリスニング練習ができません。継続して聞くことが非常に重要であり、自習が必要です！「音」になれることは重要ですが、それ以前に基礎的な「語彙」、「文法」が理解できていないことが原因でリスニングができていないことが少なくありません。苦手な人ほど、スクリプトを確認しながら音声を聞き直し、「音」が聞き取れていなかったのか、「語彙」や「文法」が理解できていなかったのか確認することをおすすめします。リスニング力を向上させるためには必要な期間は 3 ヶ月が目安です。日々聞く習慣を身につけること。

■7 月～8 月は演習問題に取り組み、基礎事項がきちんと身につけているか確認をしよう

□基礎事項がきちんと身につけていれば、問題に取り組み、解説を確認することで理解を深め、発展的な内容を身につけることができます。そうでなければ、解説を確認しても理解できず、演習の効果が十分に期待できなくなります。つまり、早い時期に基礎を固めておくのは非常に重要です！

□特に難関校志望者は各大学等の個別試験の問題に目を通し、自分が到達しなければいけないレベルを再確認しておく。

■9 月以降は共通試験、個別試験など本番の問題形式を意識して問題演習に取り組もう

□各試験の問題形式、時間配分、得点配分などを考慮し演習を行きましょう。

基礎がしっかりとできているかどうかで、その後の演習の効果が大きく変わってきます。

基礎を固めるには時間がかかるので、早い時期から計画的に取り組んでください。

- ・ “Rome was not built in a day.”
- ・ ”Where there is a will, there is a way.”

## 【数学】

### (公務員・就職希望者)

- ①受験予定の日程把握をして、出題範囲がどの辺りかを確認しましょう。
- ②過去問に早急に取り組み、出題方法・傾向をつかんでおくこと。
- ③数的推理等の難しい部分の定着のために時間が必要と思われるので、その他の分野においては、即座に答えられるように夏までには準備しましょう。

### (進学希望者)

- ①赤い本を夏休みまでに一周、夏休みでさらにもう一周しましょう。プリントや巻末の演習問題もぜひ。
- ②取り組み方は、分かる問題の正答率を上げるのはもちろんですが、分からない問題について、何がどう分からないのか、どの程度分からないのかをよく吟味しましょう。
- ③分からないレベルを分けておきましょう。(全く分からない⇒赤付箋、とっかかりはいけそう：黄付箋、なんとなくは解ける：青付箋 イケる！：貼らない 等の工夫を。)
- ④①～③をやることで、授業や課外が5割増しで理解しやすくなります。
- ⑤夏の終わり辺りには理社の強化にシフトすることになるので、今～夏までしか数学にかける時間はない。
- ⑤新傾向対策として、ニュース等のデータ分析(グラフ等)、数学と関係する(活用されている)ことの注視、その他予備知識は入れておくと良い。

今やるべきことは、今やる。後悔が少ないように準備すべし。

## 【国語】

現代文：語彙分野・・・7月まで、「入試漢字コア 2800」の意味を大まかに把握(以降、1月まで演習)

：読解分野・・・8月まで、新聞の社説を毎日読む。社会の問題に対し、自分の考えをまとめる。

難関大志望者は、8月までに国公立大の小論文入試で使われた課題文を読んでおく

小説が苦手な者は、登場人物が複数出てくる小説を2～3種類は読んでおく。

(特に戦前の小説と昭和30～40年代に発表された小説にも触れておく)

古典：文法・・・5月中に「用言」・6月までに「助動詞」・7月までに「敬語」と「助詞」を完成

漢文句法は8月までに全ての句法を一通り把握(以降、1月まで演習)

読解・・・8月まで、教科書で触れた教材・ワークの素材文(本文)を読み直す。(以降、演習)

(素材文の内容から、自分の考えをまとめる)

## 【日本史B】

教科書は12月中に終わらせる予定。日本史は日々の予習復習が「受験勉強」です。

通史・・・今から2年生で履修した内容の復習に取り組む。続けて、3年生の学習

範囲の復習にも取り組む。既習の理解度を測るため、模試の解き直しも

効果的。教科書を終わらせた後、演習実施。

(その他、平日課外、夏期課外、土ゼミ等を利用して演習を行う予定)

文化史・・・夏期の長期休業を利用して集中して取り組む。教科書、授業プリント

のほか、資料集で視覚的に学習すると効果的。

## 【世界史B】

○授業・課外における今後の予定

・課外講習(6月以降)：既習項目の問題演習とその解説を行っていく。

(夏休み中・夏休み明け以降の課外も同様の内容になる予定)

・教科書の内容は12月までに終わらせる予定。

○大学入試に向けて生徒皆さんに今後やってほしいこと、やった方がいいこと

- ・教科書・資料集・10分間テスト(問題集)を併用し、**2年生で既に勉強した内容の復習**に取り組むこと。
- ・授業でまだ取り組んでいない部分も教科書・資料集・10分間テスト(問題集)を併用し予習すること。

○どう予習・復習に取り組むか

- ・基本ベース：①教科書を読む→②資料集を見る(①と②はインプット)  
→③10分間テストを解く(問題集)(③はアウトプット)  
**※①と②と③を毎日行う。**

①教科書を読む：内容のインプット。「～があったために～が起こり、その結果～が起こって、～」といった**話の流れ(物語)をつかむこと**を重視しながら読む。8月までには教科書そのものを一度読み終えているのが理想的。

②資料集を読む：**教科書の内容(知識)を地図や写真・図などと結びつけるため**に読む。教科書に出てきた「～」という地名は地図上のどこにある場所なのか、また「～文化」の具体的な作品はどんなものなのか、これらを把握するために資料集を活用する(教科書の横に置き、逐一確認すると良い)。また大学入試では資料集に掲載された写真や地図などが問題に出題される場合も多い。資料集を読んでいないとそれらに対応できないため、事前に見ておく(知っている状態にしておく)必要もある。

③10分間テスト(問題集)：アウトプット。教科書や資料集を読むことによって得た(把握した)**知識をより強固なものにするため**実施。間違った問題にはその都度マークをつけるようにし、再度問題を解いたときに以前も間違った問題かどうか把握できるようにしておく。

※勉強する箇所、やり方については「4月中に序章・1章を3回復習する」もしくは「7月までに教科書p16～p199までを3回復習する」など様々な方法がありますが、どのようなやり方でも良いと思います。ただし、**ただいづれにしても①・②・③を毎日やる**ことが大事です。面倒だから③だけやるということをする**と、歴史の大きな流れを把握していない、もしくはほかの物事と知識が関連付けられていないため先が苦しくなります。**

世界史は量が膨大ですが、こつこつやっていけば着実に伸びていく教科です。

大変だと思いますが、毎日こつこつ頑張ってください。

世界史担当：佐藤(陽)

## 【地理B】

地理Bの学習予定として今のところ考えているのは、

系統地理：気候や農業、工業などの学習は10月までに終わらせる予定です。

教科書p6～226、サクシードp4～p119にあたる部分です

地誌：10月からは系統地理で学習したことを地域ごと、国ごとに学習します。

例えば、東アジアの地形、気候、工業、民族問題などについて学習します。

教科書p227～329、サクシードp120～p151にあたる部分です。

今、みなさんにやって欲しいのはこれまで学習した地形、気候、農業分野などを完璧にしておくことです。例えば沖積平野とは何か説明できるか、ケッペンの気候区分を全部アルファベットで書けるか、ラトソルの色、分布気候地域はどこか書けるか、米、小麦などのランキングが書けるか、ということです。これまでの考査問

題、模試の問題を解き直すのもいいと思います。以上のことができたら、3年生で学習する部分を少し予習しておいてください。

例年、第一回考査後に朝課外を中心に週2～3回ほど実施し、授業で学んだことをアウトプットするための問題演習を行っています。それまでの間に、上記のことをコツコツやってみてください。

### 【政治経済・倫理・現代社会・時事問題研究選択者へ】

#### ○授業・課外における今後の予定

・授業では教科書の内容が終了するのが共通テスト前ぎりぎりになる予定なので、講習で先回りして進む範囲があります。

・課外講習(6月以降)：既習範囲の問題演習を中心行っていきます。

(夏休み中・夏休み明け以降の課外も同様の内容になる予定)

#### ○大学入試にむけて今後やってほしいこと

・教科書の精読をまずはおこなってください。予習・復習として1年次の現代社会の教科書や資料集、演習ノートの該当範囲に取り組んでおくのも良いです。

○教科書の精読後、文中の太字を覚えておいてください。ただ覚えるのではなく背景や因果関係などもとらえられると良いです。

公民科目については、まずは授業が始まる前に教科書を複数回読んでおいてください。政治経済については中学校の公民の復習となる範囲もあるし、現代社会の教科書とかぶる部分が多々あるので、それらを一緒に活用すると理解が深まります。また、倫理選択者は現代社会で学習した倫理範囲の復習をすることが今後の授業の予習となります。そして現代社会・時事問題研究選択者は1年次の現代社会の教科書・資料集・演習ノートをもそのまま使うので、予習をそれらで行うようにしてください。

各科目とも細かいところについては授業再開後に解説しますので、他教科と同様に自分でできることは今行っておいてください。公民科目はきちんと勉強すれば確実に知識の定着が見込める教科です。今分からないところがあってもあまり気にせずに学習を進めてください。

公民 担当：幸野・内田

### 【化学】

#### < 授業について >

○授業ペースがはやくなる可能性あり。課題プリント等を活用し、予習をしておくこと。

普通科：9月(第2回考査)までに教科書終了→演習。

災害科学科：無機化学は、指示通り自学自習&ZOOM。10月(第3回考査前)までに教科書終了→演習。

#### < 受験勉強について >

○今から：まずは理論化学を一通り復習。解けなくても落ち込まない・投げ出さない。

知識・考え方の“抜け”や間違いはないか、自分の苦手な分野や問題を把握することが目的。

夏からでは間に合わない。他科目との兼ね合いを見て自分でペースを決めて今のうちから取り組むこと。

○夏休み前～中：志望大学の過去問分析。出題傾向や難易度、苦手分野の確認。

#### < 理系の化学基礎のみの受験について >

○授業では取り扱えるかわからないため、基本的には自学自習&個別対応。ワーク等を解きながら教科書を一通り復習し、知識・考え方の“抜け”や間違いはないか、自分の苦手な分野や問題を把握すること。

○化学の授業との両立ができるように学習計画を立てて取り組むこと。

### 【アプローチ化学】

学習スケジュールについて

～6月まで

- ・1年次の最後の分野である「酸化還元」分野をはじめからもう一度やり直す。  
(入試において得点に差が生まれやすいところであるため)

7月～12月

- ・副教材「大学入試共通テスト対策チェック&演習化学基礎」を中心に、演習を進めます。

<授業の流れ>

- ① 目次の項目の順に、大まかな内容的な復習と、例題の演習を授業で行う。
- ② 授業で行った範囲の演習問題を各自次回の授業まで取り組む。
- ③ ①の次の授業で、演習を行う。
- ④ ③の採点返却後に、重要問題の解説を行う。(特に、計算問題中心)

この後、①～④の繰り返しながら、化学基礎全範囲を網羅する予定。

※ 基本的には、授業のみで大学入試共通テストに対応できるようにします。

※ 共通テスト直前期は、演習量を増やす予定です。

### 【地学基礎】

7月末までに教科書の基礎事項把握が終わること。教科書の語句がきちんと説明できる状況にしてあればなおよい。

8月からは問題集を2～3回転できるよう繰り返すこと。できない部分をそのまま弱点にすると、そこが出題されたときに手が付けられなくなる。あやふやな分野をそのままにせず、教科書・資料集で基本を確認すること。この頃から知識の「連動」を意識した演習を行うこと。

10月以後、センター過去問・模擬試験過去問に取り組む。ここで思考力を強化する演習を行う。いわゆる模擬試験の過去問が良問である。そのような良問に数多く接すること。

### 【生物(理系)】

教科書の目次と月ごとの到達目標を照らし合わせました。基本は以下の『サイクル』で勉強することです。人によって順番が違う場合もありますが、いえることは「時間がないから問題集だけでやる」・・・これはダメです。知識がしっかりしていれば、見たことのない問題、見たことのない実験問題も解けます。自分なりのペースで勉強して下さい。『教科書⇒問題集・図説』

第1編 生命現象と物質 第1章～第3章 4月～7月 夏休み前まで

第5編 生物の進化と系統 第8章～9章

第2編 生殖と発生 9月～10月

第3編 生物の環境応答 第5章 10月～11月

第3編 生物の環境応答	第6章	夏休み
第4編 生態と環境	第7章	夏休み

**【生物（災害科学科）】**

第2編：4月，第3編：6月～8月，第4編：9月，第5編：10月～11月初旬

問題演習：11月中旬～（①記述演習11月，②共通試験演習12月～1月中旬，③二次対策1月下旬～）

学校が始まるまでは、教科書をよく読んで、必要に応じて自分でまとめておいてください。

同範囲のワークを解いて、自分で○付けをしてください。ポイントとなる問題は解説動画を iTunesU に掲載します。各自活用してください。動画は普通科の友達にも共通してあげてください。

このような時にこそ、多賀城高校、そして災害科学科の真価が問われると思います。災害科学科の皆さんはもちろん、普通科の皆さんも頑張りましょう。

**【物理：普通科】**

力学…4月まで，波…5月まで，熱…6月まで，電磁気…9月まで，原子…10月まで，11月からセンター演習

**【物理：災害科】**

電磁気…6月まで，原子…7月まで，8月からレベル2（旧帝大）演習，9月からレベル3（東大京大）演習，10月レベル4（東工大）演習